

「2023年度香港中文大学サマースクール派遣参加報告書」

京都大学経済学部2年 石橋 肇子

① 学習成果

3週間という短い期間ではあったが、言語だけでなく、香港の文化や伝統、歴史を肌で感じる事ができ、非常に有意義な時間を過ごせた。

言語学習の点においては、授業内で行われるプレゼンテーションなどでアウトプットを重ねたことで語彙力が向上し、帰国後もアウトプットを重視した学習を継続しようと思った。また、ともに授業を受けたレベルの高い同学们の中国語学習への真剣な姿勢には影響を受け、彼らのように話せるようになりたいという思いが帰国後の中国語学習へのモチベーションにもなっている。

文化面においては、現地の学生との交流や香港の街を散策する中で、香港の生きた姿を随所で感じることができた。それと同時に、日本を客観視する良い機会にもなった。

② 海外での経験

宿泊に関しては、プログラム参加者が基本的には2人ずつ部屋に割り振られていた。寮はかなり清潔で、入寮時にトイレトペーパーが3つ配布されたり、各フロアにウォーターサーバーが設置されていたり、快適に過ごすことができた。プログラム参加者は同じフロアに集まっていたため、共用のキッチンで共に食事をするなどして親睦を深められた。

また、週末のツアーに参加していた香港中文大学の学生と親しくなり、放課後に食事に行くなどした。日本と香港の学生の大学生活や就職活動の違いについて話したり、お互いの国の文化について尋ね合ったり、興味深い経験ができた。

③ プログラム内容

授業は、平日の午前にリーディング、ライティング、午後にスピーキング、リスニングの授業がそれぞれ3時間ずつ行われた。クラスは4つのレベルで分けられており、私が属していた一番上のクラスでは、基本的に授業は中国語のみで行われた。週に一回プレゼンテーションを行うため、放課後や週末に中国語で原稿を準備する必要があった。テーマや使う語彙は授業内容に関連するものであったため、このプレゼンテーションによって、語彙の定着をかなり感じる事ができた。

休日には香港中文大学が用意してくれた香港ツアーに参加した。ランタオ島やヴィクトリアピークといった、個人で行くには多少遠いような場所へ連れて行ってもらえて有難かった。5, 6人の留学生のグループに香港中文大学の学生が1人ついており、疑問に思ったことを尋ねたり、中国語で交流したりすることができた。

④ 進路への影響

今回の留学を通して、中華圏への関心が更に強まった。また、将来中国語を生かせるような仕事に就きたいという思いが強まるとともに、そのためにも中国語の学習により一層邁進したいと決意した。